

平成29年度 自己評価計画書

石川県立羽松高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評 価 の 観 点	実現状況の達成度判断基準	判 定 基 準	備 考
1 生徒一人ひとりの能力に応じたきめ細かな学習指導により、基礎学力を養い、学校全体の質の向上に努める。	① 基礎学力の定着に向け、各教科で「授業がわかる」と生徒が思う授業づくりの工夫をする。	教務課 各教科	基礎学力が身に付いておらず、学習面において自信を持つことができていない生徒が多いため、学び直し等の学習に多くの時間をかける必要があり、発展的な学習が難しい。	【成果指標】 授業内容を理解し、基礎学力が向上している。	授業が理解でき、基礎学力が向上していると思う生徒の割合が A 90%以上である。 B 80%以上である。 C 70%以上である。 D 70%未満である。	C以下の場合、再検討する。	7月、12月の生徒授業アンケートにより集計
	② 授業力の改善や教員としての資質の向上を図るため、校内外への研修に積極的に参加する。	教務課	相互授業参観や授業力向上の研修は行っているが、校外研修への参加が少ない。	【努力指標】 校内外への研修に参加し授業力・資質向上に努める。	校外外への研修に A 7回以上参加した。 B 6回参加した。 C 5回参加した。 D 4回以下であった。	A+Bが80%未満の場合、再検討する。	8月、1月の教員アンケートにより集計
	③ 生徒が意欲的に学習に取り組めるよう、ICT機器等を効果的に活用し、授業改善に努める。	教務課	習熟度別指導、TT、サポート支援等を実施している。生徒、保護者の評価は高いが、ICT機器等を効果的に活用するなど、なお一層授業改善が必要である。	【努力指標】 生徒の興味関心を高めるために、教員がICT機器等を活用し、授業改善に努める。	積極的に授業に参加していると思う生徒の割合が A 75%以上である。 B 60%以上である。 C 50%以上である。 D 50%未満である。	C以下の場合、再検討する。	7月、12月の生徒授業アンケートにより集計
2 基本的生活習慣を確立するとともに、いじめや暴力行為等の未然防止の取組を充実し、規範意識の向上を図る。	① いじめや暴力、スマホ・携帯電話等を介した不適切な書き込みの未然防止のための集会や研修等の充実を図る。	指導課 全教職員	他と直接的に関わることを避け、スマホ・携帯電話等のツールを介して交友関係を築こうとしている生徒が多く、時には自己中心的で、相手に不快な感情を抱かせる書き込みが起きている。	【努力指標】 スマホ・携帯電話等のツールを介した問題ない学校づくりに努める。	スマホ・携帯電話等に関する苦情・相談件数が A 0件である。 B 1件である。 C 2件である。 D 3件以上である。	C以下の場合、再検討する。	7月、12月の生徒アンケート及び、9月、3月の生徒指導等調査により集計
	② 服装や行動様式に関して適切に実践できるよう、個別指導を充実する。	指導課	年度始めに「生徒心得」に関する再確認をしたが、その認識が甘く意識して行動することのできない生徒が見られる。	【努力指標】 高校生らしい身だしなみに努める。	服装や髪型等のきまりを意識して行動していると思う生徒が A 90%以上いる。 B 80%以上いる。 C 70%以上いる。 D 70%未満である。	C以下の場合、再検討する。	7月、12月の生徒アンケートにより集計
	③ 基本的生活習慣を確立するため、家庭との連携を密にするとともに、朝食摂取習慣の定着を目指し、指導を工夫する。	厚生相談課	基本的生活習慣の乱れが改善できず、「朝食を食べて登校する」ことができていない生徒が見受けられる。	【成果指標】 夜更しせずに就寝し、余裕を持って起床できしっかりと朝食を摂る事ができる。	朝食を毎日食べる生徒が A 70%以上いる。 B 60%以上いる。 C 50%以上いる。 D 50%未満である。	C以下の場合、再検討する。	7月、12月の生徒アンケート及びステップアップアンケートにより集計

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考
3 教育活動全体を通じて主体性やコミュニケーション能力等の社会性を身に付け、社会人として必要な基礎能力を育む。	① 生徒が自主的に活動し、自分の考えを発言できるよう、授業にアクティブラーニング等を積極的に取り入れる。	全教職員 教務課 厚生相談課	不登校経験者が多く在籍し、人前で発言することや他人と関わるのが苦手な生徒が多くいる。	【成果指標】 授業中、自分の考えや意見を述べることができる。	授業中、自分の考えや意見を述べる生徒の割合が、 A 70%以上である。 B 60%以上である。 C 50%以上である。 D 50%未満である。	C以下の場合、再検討する。	7月、12月の生徒授業アンケートにより集計
	② 定通大会、体育祭、文化祭、球技大会等において、他の課と協働して、生徒一人ひとりが、主体性を持って取り組み、自己有用感と協調性の高まる工夫をする。	指導課	行事には参加するが、他と関わりを極力避け、集団での活動を苦手とし、どちらかと言えば運動嫌いで、各行事には消極的にしか取り組めない生徒が多くいる。	【成果指標】 生徒一人ひとりが行事に積極的に参画するとともに、協力して取り組んでいる。	定通大会、文化祭、球技大会等の各種行事に、 A 積極的に取り組んだ。 B だいたい取り組んだ。 C あまり取り組まなかった。 D ほとんど取り組まなかった。	A+Bが85%未満の場合、再検討する。	行事毎、及び7、12月の生徒アンケートにより集計
	③ 安全安心な学校づくりの一環としての避難訓練等の行事において、生徒が意義を理解し主体的に振り返れるように指導する。	総務課 指導課	避難訓練において昨年度から煙退避訓練を行うなど「やらされ感」を払拭しようとしているが、生徒が主体的に課題を検討し振り返りをしているとはいえない。	【成果指標】 全生徒が行事の意義を理解し学校の課題を検討できている。	振り返りで課題を検討できた生徒の割合が、 A 70%以上である。 B 60%以上である。 C 50%以上である。 D 50%未満である。	C以下の場合、再検討する。	行事毎の生徒アンケートにより集計
4 キャリア教育を推進し、就労意識を高めるとともに、一年次からの進路指導を充実し、卒業生徒全員の進路実現を目指す。	① 各学年ごとに進路行事を計画的に実施し、進路意識の向上を図り、各自が進路目標を決定する足がかりにする。	指導課	自分の将来像を漠然と描いている生徒が多く、卒業学年になっても、進路について迷っている生徒が多い。	【満足度指標】 進路行事、総合的な学習の時間、HR活動等を通して、具体的な進路目標を持つことができる。	具体的な進路目標を持っている生徒が A 90%以上である。 B 80%以上である。 C 70%以上である。 D 70%未満である。	C以下の場合、再検討する。	行事毎、及び7月12月の生徒アンケートにより集計
	② 生徒および保護者の進路志望を実現するため、関係機関との連携を密にし、生徒の能力・適性を生かした進路決定に努める。	指導課	昨年の卒業生とは違い、今年度は、卒業後の進路について考える意識の希薄な生徒が多い。そのため進路決定時期が遅くなる予想がされる。	【成果指標】 進路希望に応じた進路実現が達成できる。	進路実現率が A 100%である。 B 90%以上である。 C 70%以上である。 D 70%未満である。	C以下の場合、再検討する。	就職は11月下旬、進学は12月下旬に中間集計。2月末に最終集計